

長谷川慶幸 学位論文審査要旨

主 査 大 槻 明 広
副主査 萩 野 浩
同 片 岡 英 幸

主論文

Bystanders' willingness to perform basic life support and its relationship with facilitative and obstructive factors: a nationwide survey in Japan

(バイスタンダーのBLS実施意志とそれに関連する促進・抑制要因：日本における全国調査)

(著者：長谷川慶幸、花木啓一)

令和5年 Yonago Acta Medica 66巻 67頁～77頁

参考論文

1. Factors related to young people's willingness to perform basic life support

(若年者のBLS実施意志の関連要因)

(著者：長谷川慶幸、花木啓一)

令和5年 Yonago Acta Medica 66巻 120頁～128頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、通りすがりの人(バイスタンダー)が院外心停止 (OHCA) 傷病者にBLSを実施する意志を高める教育方法を明らかにすることを目的に、社会心理学で他者を援助する際の心理状態に用いられる援助行動理論に基づいて設定したBLS実施意志の促進・抑制要因とBLS実施意志との関連を、インターネットを用いて全国調査を行った研究である。その結果、傷病者への介入の度合いの上昇に伴い、BLS実施の意志は低下していた。BLS実施意志の促進要因として、BLS実施の能力・経験の充足、自分のメリット、個人の行動基準となる価値観、傷病者との心理的距離の近さの4つが示された。抑制要因として明らかとなった要因はなかった。本論文の内容は、これらの促進因子に着目した講習会などの教育活動が、バイスタンダーによるBLSの実施率を高めるために有用であることを示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。